



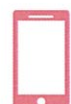
レディーフォー遺贈寄付サポート窓口

お気軽にご連絡ください

通話料
無料電話

☎ 0120-948-313

受付時間：平日10時～17時（年末年始を除く）



ホームページは
こちらからも
ご覧いただけます

<https://izo.readyfor.jp/>



ホームページはこちらから

レディーフォー 遺贈寄付



寄付のたより

～環境特集～





団体名：公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構

設立年：1975年3月

住所：東京都文京区湯島2-31-24 湯島ベアービル7階

代表者名：理事長 坂本 雅信

〔活動概要〕

漁業関係者と連携を取りながら、海岸清掃を中心とした環境美化活動と、

原因者不明の油汚染事故による漁業被害保障を行う。

全国で展開する海岸清掃活動「海と渚のクリーンアップ活動」には年間約100万人が参加。

日本の美しい海を次世代に残す。 100万人によるクリーンアップ活動

海と渚環境美化・油濁対策機構の課長の福田様にお話を伺いました。

Q. 海と渚環境美化・油濁対策機構様のご活動内容と、いただいた寄付金の活用先について教えてください。

ーまだ海洋プラスチック問題があまり注目されていなかった1992年、ブラジルのリオデジャネイロで開催された環境サミットで「海ごみ」が国際的な問題として取り上げられました。その当時、日本国内には環境省のような海ごみを管理する機関はなく、管理者不在の中で、海を生業とする漁業者の方々が中心となり「美化活動を通じて海をきれいにしていく」という想いから当団体の活動はスタートしました。

現在は、大きく二つの活動に取り組んでおり、一つは全国各地の海浜清掃を中心とした環境美化活動、そしてもう一つが、原因者不明の油汚染事故が発生した場合の漁業被害補償を含む活動です。いただいた寄付金は主に、海浜美化活動に活用させていただいており、海浜清掃用のごみ袋やハンドブックの無償提供、出前授業等を通じ、清掃活動の指導者や参加者への普及啓発を行っています。

設立当時から、長年にわたり漁業関係者の方々と日々コミュニケーションを取らせていただいておりますが、近年いただく海のごみ問題として、「漁網を引いた際にごみが混入し、船上で魚とごみを分ける作業が増加している」といったお声や、特にここ数年で顕著に増加しているのは「養殖いけすにマスクのごみが落ちている」というお声です。

海のごみの7～8割は陸上から流れてくるというデータもあり、漁業者が海でいくらごみを回収しても、陸からごみを流さないようにすることや、ごみの分別を適切に行うことが非常に重要であると痛感しています。

Q. マスクが海に流れつくのは、近年の生活様式の影響が顕著に反映されていますね。清掃活動に参加される方からはどのようなお声を受けられるのでしょうか？

ー私たちが全国で展開する「海と渚のクリーンアップ活動」には、漁協関係者、地域住民、ボランティア団体、小中学生など年間約100万人の方々が参加しています。



参加者の方々からは「思ったよりごみが多い」という驚きの声や、「海岸がきれいになって気持ちがいい。また来年も続けたい」という前向きな感想がある一方で、「いくら拾っても綺麗にならない」といった意見もいただきます。

これらの全国各地で行われる清掃活動は、都道府県の水産課や、各都道府県にある漁業組合の連合会、釣り業界や電力会社など、様々な組織との連携によって実現されています。

清掃活動の場所は、各機関がそれぞれ決定していくのですが、参加者のアクセスのしやすさ、トイレの有無といった条件から、海水浴場や観光地に近い場所が多くなる傾向にあります。そのような場所では毎年活動が続けられていますが、船でなければ行けないような場所や、人が入りにくい場所での清掃はなかなか難しく、企業の出資などによって初めて実施できるというのが現状です。また国内の人口減少に伴い、特に地方での清掃活動の維持が大きな課題となっています。



Q. 清掃できるエリアにはさまざまな制約や課題があるのですね。寄付者様からはどのようなお声をいただくのでしょうか？

ー長年にわたり継続して寄付してくださる方に加え、近年は、新たな層からの寄付も増えています。特に、小中学校や高校の学生の皆様からの募金が増加傾向にあり、文化祭や授業の一環として、ペットボトルの蓋で作品を作り、その収益を募金してくれるといった、子どもたちの工夫を凝らした支援が増えていることに驚きと喜びを感じています。また、内陸部にお住まいの方で、「体が不自由なために海には行けませんが、海をきれいにすることに役立ててほしい」と願いを込めて寄付してくださる方もいらっしゃいます。

Q. さまざまな立場の方からの想いの乗った寄付事例が大変素敵です。遺贈寄付を受けた場合に、寄付金を活用したい事業・活動があれば教えてください。

ー最も優先したいのは「内陸への声かけ」です。海のごみの多くが陸上から流れてくる現状を踏まえ、ごみが出る陸上部、特に内陸部の方々へ直接働きかけることの重要性を強く感じています。しかし、「陸から海にごみが流れ出る」という考えになかなかご理解いただけないことも多く、内陸部の行政機関と連携を図ろうとしても「うちは海に面していないから関係ない」と相手にしてもらえないことも多いです。

まとまった資金をいただいた場合は、内陸部へのアプローチを強化するため、協力者を募り、体制を整えることに活用させていただきたいと考えています。時間はかかると思いますが、内陸部への働きかけなくしては、いくら海でごみを拾っても根本的な解決にはならないと思います。

Q. 最後に、読者のみなさまへメッセージをお願いいたします。

ー地元の方々と長年かけて信頼関係を築きながら活動を続けている一方、あまり広報には注力してこなかったこともあり、是非この機会に私たちの取り組みに関心を持っていただけたら嬉しく思います。日本の豊かな海を守り、未来へつないでいくために、ぜひご支援をいただけたらありがたいです。

福田様、貴重なお話を誠にありがとうございました！

